

# 佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和2年度（令和元年度実績）

基本目標評価シート

2020（令和2年）\_効果検証

資料2 総合戦略基本目標評価シート

※達成状況 ◎:R元年度の達成状況が100%以上 ○:R元年度の達成状況が50%以上、100%未満 △:R元年度の達成状況が50%未満

基本目標	KPI(重要成果指標)	戦略策定前	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	最終年目標値 (R元年度)	令和元年度 実績値	達成状況	達成度(%)
安定したしごとをつくる	創業件数(累計)(件) (チャレンジショップ、空き店舗活用等、 市の支援事業を活用して創業した件数)	6	(累計19) (単年13)	(累計28) (単年9)	(累計37) (単年9)	(累計51) (単年14)	(累計60)	(累計59) (単年8)	○	98.3
	企業誘致件数(累計)(件) (官民の産業団地への誘致企業数)	11	(累計15) (単年4)	(累計21) (単年6)	(累計26) (単年5)	(累計28) (単年2)	(累計21)	(累計28) (単年0)	◎	133.3
	中心市街地(佐野駅周辺)が便利・にぎやか になったと思う市民の割合(%)	54.1	57.3	57.9	52	56.2	70	52.7	○	75.3
	佐野田沼IC入出庫台数(台)	2,284,208	2,294,101	2,312,530	2,366,735	2,394,929	2,760,000	2,390,370	○	86.6
	新規就農者数(青年就農給付金活用者)(累 計)(人)	8	(累計9) (単年1)	(累計31) (単年22)	(累計37) (単年6)	(累計42) (単年5)	(累計55)	(累計48) (単年6)	○	87.3
	農地の利用集積(農地貸借面積)(ha)	1,137.0	1,150.8	1,156.8	1,170.7	1,154.8	1,250	1,175	○	94.0
懇談会 委員評価	<b>地方創生に 非常に効果的であった</b>	例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合							評価 委員数	
	<b>地方創生に 相当程度効果があった</b>	例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合								
	<b>地方創生に効果があった</b>	例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合								
	<b>地方創生に対して 効果がなかった</b>	例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、 もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合								
主な 委員意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐野駅周辺の賑わいだけでなく、田沼・葛生地区の市街地、商業の活性化に努めるべき。競い合い地域特性を活かすことが市の活性化になる。</li> <li>・スマートICや産業団地整備は十分に評価する。</li> <li>・新規就農者に関しては、農協のほか、国や県が実施する施策もあり、統一した案(協力)が必要。</li> <li>・農地の利用集積に関して、農業公社への協力が大であり、市として予算等の協力をお願いすることで、活動など、市民サービスが良くなるのではないかと期待している。4つ目の出流原インターチェンジも予定されているので、幅広い業種に佐野に進出してもらえよう、対策を練っていただきたい。</li> <li>・昨年の台風、コロナの影響があったため、実績が上がらなかったと思われる。</li> <li>・企業誘致は大きく実績を伸ばし、他の指標も台風、コロナ禍を勘案すれば健闘した。</li> <li>・外的要因(台風・コロナ)の影響が大きいと感じるが、逆風の中、目標に近い数値を示した。</li> <li>・KPIと戦略掲載事項の相関が弱いのではないかと感じる。</li> <li>・数値上は上々の評価と言えるが、市民の実感が伴っているかは不透明。これも台風、コロナの影響か。</li> </ul>									

資料2 総合戦略基本目標評価シート

※達成状況 ◎:R元年度の達成状況が100%以上 ○:R元年度の達成状況が50%以上、100%未満 △:R元年度の達成状況が50%未満

基本目標	KPI(重要成果指標)	戦略策定前	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	最終年目標値 (R元年度)	令和元年度	達成状況	達成度(%)
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値		
新しい人の流れをつくる	市区町村の全国認知度ランキング(全国1000市区町村)(位)	399	399	415	467	419	50	364	△	未達
	年間観光入込客数(千人)	8,623	8,554	8,700	8,883	8,741	10,000	8,575	○	85.8
	市外からの移住者数(アンケートで把握できた数)(人)	-	(累計126) (単年126)	(累計255) (単年129)	(累計478) (単年223)	(累計525) (単年47)	150	(累計564) (単年39)	◎	376.0
	転入者数(人)	3,197	3,102	3,317	3,359	3,422	3,320	3,428	◎	103.3
	空き家バンク物件契約締結件数	-	-	(累計0) (単年0)	(累計5) (単年5)	(累計14) (単年9)	30	(累計35) (単年21)	◎	116.7
	佐野暮らし相談件数	5.0	(累計13) (単年8)	(累計25) (単年12)	(累計44) (単年19)	(累計87) (単年43)	50	(累計155) (単年68)	◎	310.0
懇談会 委員評価	地方創生に 非常に効果的であった	例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合							評価 委員数	16
	地方創生に 相当程度効果があった	例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合								
	地方創生に効果があった	例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合								
	地方創生に対して 効果がなかった	例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、 もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合								
委員意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成状況が良く、地方創生に効果があった。</li> <li>コロナの中で、地方への評価が高い今、都内の駅や鉄道でのシティプロモーションに力を入れるべき。</li> <li>コロナ関連で周知等が困難であったと思われ、目標の達成が難しかったと思う。</li> <li>コロナによるリモートワーク等、利点を生かす逆転の発想に期待する。</li> <li>コロナ対策で観光は難しいですが、何とか工夫して、市内、旧田沼葛生方面へ集客関心を持って頂く努力が必要かと思料する。</li> <li>全国認知度ランキングの目標値が高すぎたのではないか。その他の事業は、すべて目標を達成できているので、一定の効果は出ている。</li> <li>認知度ランキングについては、調査手法からして客観性に少し欠けるので、目標達成せずともよし。</li> <li>移住及び転入については大いに検討している。事業の効果ではないか。</li> <li>想像以上に佐野市への転入者数が増加している。特に令和元年度の受け入れ態勢の整備がととのっていることは実力を感じた。</li> <li>認知度にはいかに市外の人を呼び込めるかがキーポイント。生活者及び来訪者の足の確保も必要かと思料します。</li> <li>国際クリケット場の活用により、佐野市の認知度が高まるのが期待されたが、現状、それには程遠い。</li> <li>本年より始まった「佐藤の会」に期待したい。そのほかの事業のさまざまな仕掛けも、どう育っていくか注目したい。</li> <li>UIJターンの「市外からの移住者数」の達成率は376%なのだが、人口は増加していない。</li> <li>認知度は目標未達成ながら少しずつ順位を上げてきている点を評価したい</li> <li>6項目中4項目が実績値が高く、特に移住者が大きく増えたことは大変良いと思う。</li> </ul>									

資料2 総合戦略基本目標評価シート

※達成状況 ◎:R元年度の達成状況が100%以上 ○:R元年度の達成状況が50%以上、100%未満 △:R元年度の達成状況が50%未満

基本目標	KPI(重要成果指標)	戦略策定前	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	最終年目標値 (R元年度)	令和元年度 実績値	達成状況	達成度(%)	
結婚・ 妊娠を・ 出産・ 子育ての	出生者に占める第3子の割合(%)	14.6	15.2	17.6	15.2	17.2	15	17.3	◎	115.3	
	子育てを楽しんでいる市民の割合(%)	91.1	93.3	97.4	99.1	95	95	90.3	○	95.1	
	子育てに負担や不安を感じている市民の割合(%)	80.6	80.0	77.6	67.3	65.9	70.0	71.2	○	98.3	
	第3子以降出生数(人)	133	130	148	123	138	150	129	○	86.0	
事業評価	<b>地方創生に 非常に効果的であった</b>	例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合							評価 委員数		6
	<b>地方創生に 相当程度効果があった</b>	例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合									
	<b>地方創生に効果があった</b>	例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合									
	<b>地方創生に対して 効果がなかった</b>	例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、 もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合									
委員意見欄	<ul style="list-style-type: none"> <li>出生率が1.38でよくなっているわけではない。効果があったとは言えない。出生率が上がっている市の政策をまねして、実施したほうが良い。</li> <li>婚活に関する事業について、もっと工夫が必要ではないか？</li> <li>女性が働きやすい職場作りが必要かと思えます。※入社時間、退社時間の配慮等が大切であると考えます。託児所の開設など。</li> <li>個人差もあり、非常にデリケートな事業であるため、時間をかけて取り組む必要がある。</li> <li>結婚数、出産数のベースの数値が伸びない中で、かろうじて第3子の割合が目標達成していることは効果ありと評価してもよいのでは。</li> <li>子どものことを大切に育てるといふ佐野市の気持ちが弱いと思う。</li> <li>第3子が増加するという具体的な成果はわかるが、子育てを楽しんでいる、あるいは、負担や不安を感じる市民の割合という数値は、そもそも策定前でも90%や80%と高く、その後の水位が、どれだけ実態を伴うものか実感がわからない。</li> <li>また、わずかな%の差で効果があったとか言いきれないのではないかと。</li> <li>経済動向等の要因により、数値は変動するものと考えられることにより一市町村で対処出来るものではないと考えているが、項目によっては改善がみられる。</li> <li>公的支援に加えて、民間の産休・育休の整備状況(休みがとれる)も重要である。</li> <li>目標に対する達成度は一定の効果が認められるが、人口増にはさらなる高い目標が必要となる。</li> <li>子育てを負担・不安に感じている市民の割合が、戦略前と比べ、大きく減っていることは大いに評価できる。</li> <li>農業後継者結婚推進事業の応募者が激減していることが気になり。</li> <li>第2子からの施策に変えたほうが効果が得られるのではないかと。</li> </ul>										

資料2 総合戦略基本目標評価シート

※達成状況 ◎:R元年度の達成状況が100%以上 ○:R元年度の達成状況が50%以上、100%未満 △:R元年度の達成状況が50%未満

基本目標	KPI(重要成果指標)	戦略策定前	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績値	最終年目標値	令和元年度	達成状況	達成度(%)
			実績値	実績値	実績値		(R元年度)	実績値		
つくり、安心して暮らす し、あった地域を守る	市営バス乗車人員(人)	121,292	124,932	133,211	139,675	142,323	125,000	139,835	◎	111.9
	市民活動に参加したことの市民の割合(%)	58	54.9	56.8	62.6	59.9	70	56.6	○	80.9
	(自主防災組織町会率(%))	(75.4)	(78.4)	(80.8)	-	-	(100)	(100)	○	93.9
	自主防災会組織町会率(%)	-	-	-	62.9	66.5	76.6	71.9	○	93.9
平成29年度より自主防災会組織町会率に指標を変更(自警団組織をカウントせず)										
事業評価	<b>地方創生に非常に効果的であった</b>	例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合							評価 委員数	1
	<b>地方創生に相当程度効果があった</b>	例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合								5
	<b>地方創生に効果があった</b>	例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合								9
	<b>地方創生に対して効果がなかった</b>	例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合								1
委員意見欄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営バスは今後も高齢者等の重要な足となります。中山間地域へのサービスは継続してほしい。</li> <li>・超高齢化社会の防災についても民間との協働をしてほしい。</li> <li>・自主防災(町会毎)と広域の、より連携を深める必要性大。</li> <li>・市営バスの利用の仕方、理解を深めるためのより分かりやすい資料の提供。</li> <li>・市営バスの乗車人員も増加傾向となり一定の効果がある。自主防災会組織率については、地域実情もあり、時間がかかると思われる。</li> <li>・自然災害が頻発する中で自主防災組織の立ち上げが急務。地域づくり活動の支援を含めて、取り組みはもう一段高めよう。</li> <li>・市に対する市民愛が少ない。</li> <li>・市民活動に参加、防災体制の充実などは、なんとなく形の上のことで、時代にあった地域をつくるという中身の方向性を示して、それを実現するための施策を考える必要があったのではないかと。</li> <li>・拠点連結は利用者にとって便利ではあるが、拠点までの利用者をどのように集めるかが重要かと。福祉としての一点で、交通弱者へどれだけ手を差し伸べられるかが、今後の乗車人員確保に役立つと思います。</li> <li>・栃木市など参考にすることも一つかと思えます。市の周辺部の市民等。</li> <li>・5年前に策定した計画が時代のスピードに負けてしまった感がある。</li> <li>・時代にあった地域のモデル、イメージができていないと感じない。前進しているが、目指すものを示す必要があると考える。</li> <li>・バスに関しては、JRなど民間企業と連携がうまく取れている好例だと思う。</li> <li>・市民活動助成金や防災士育成女性など、とても良い制度があるが、認知度が低く、町会長すら防災士の存在を知らない方もいる。もう少し認知度を上げることが望ましい。</li> <li>・高齢化の問題がさらに重要になるが、テクノロジーの深化とデマンド交通がさらに融合することで、新しい成果が期待できると考える。</li> <li>・地域づくりや防災と言ったものをITやIoTの技術を取り入れることで、人間では限界があるものを越えたものが可能となると考える。</li> </ul>									